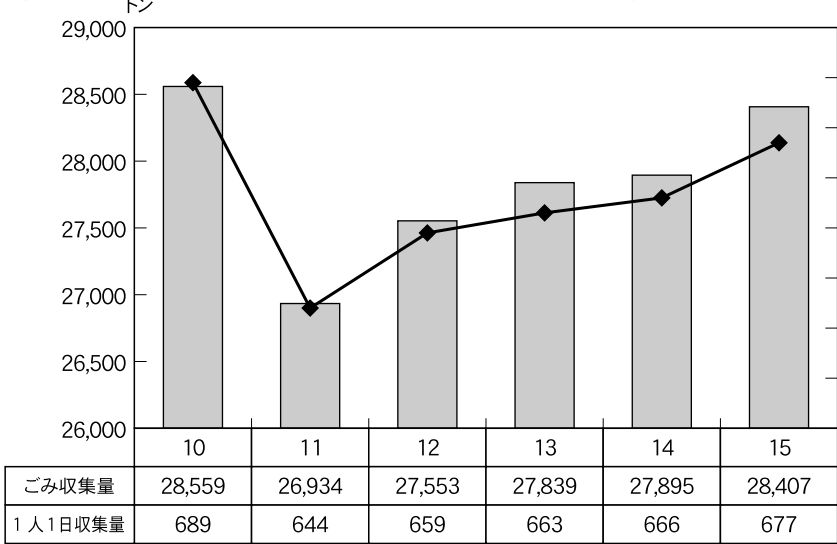


図 ごみ収集量の推移



棒グラフ=ごみ収集量、折れ線グラフ=1人1日当たり収集量

市政構造改革 選ばれ続ける まちづくりのために



これまでの取り組み

市では収集したごみを柳泉園組合で燃却や破砕などの中間処理を行い、焼却灰と残

ごみ排出量の状況は、一人一日当たりの収集量から見ると増加の傾向をたどっています。このまま策を講じなければ、日の出町にある二ツ塚最終処分場が平成24年には満杯になると予想されています。最終処分場の延命化や環境に対する負荷軽減の観点から、循環型社会を目指し、より一層、ごみ排出抑制・減量化・リサイクル推進していく必要に迫られています。今回は、今後のごみ減量化対策に向けた対応についての考え方を紹介します。

ご質問、ご意見は電話73・2117、ファクス77・6755、電子メールでごみ対策課へ。

ごみ対策課メールアドレス
gomitaisaku@city.higashikurume.lg.jp

ごみ収集量等の推移

6年度、11年度の間に、順調に減少していましたが、12年度以降は増加傾向にあり、12年度では、11年度より619トンの増加となっています。

また、市民一人一日当たりの収集量も同様に12年度以降増加傾向にあり、12年度では11年度より15グラムの増加となっています（上図参照）。

ごみ収集処理経費および市民一人当たりの処理費の推移

ごみ収集処理経費は、10年度、12年度は減少していましたが、13年度からは、毎年増加しています。13年度では12年度より3692万7千円の増額となっています。このままではさらに多くの税金を投入しなければなりません。

用語解説

- ▼リデュース（発生抑制）＝効率的利用や長期間の使用等により廃棄物の発生を抑制すること
- ▼リユース（再使用）＝循環資源をそのまま、もしくは修理を行って使用すること
- ▼リサイクル（再利用）＝循環資源を原材料として使用すること
- ▼収集量＝市委託収集を含むが、収集し柳泉園組合に搬入した量をいう
- ▼排出量＝事業系収集（ごみおよび市民が収集し柳泉園組合に持ち込んだ量と市が収集し搬入した合計量）をいう

ため、一層のごみ排出抑制・減量化・リサイクルを推進していく必要があります（表1参照）。

ごみ減量化・リサイクルの状況

資源ごみの総資源化量は市民一人一日当たり224グラム

5年10月の柳泉園組合のリサイクルセンター開設に伴い、それまでの可燃・不燃・粗大・有害ごみの4分別収集から、ビン・缶・古紙・古布を加えた8分別収集を開始。さらに6年5月にペットボトル・白色トレイ・紙パックを加えた現在の11分別収集方式を開始しました。

資源ごみの回収量を11分別収集開始当時の7年度と15年度を比較してみると、紙布類が981トンから3035トン、ビンが1090トンから1250トン、缶が526トンから529トン、ペットボトルが37トンから334トン、白色トレイが16トンから22トン、総量で2888トンから5264トンと2376トン（82・3％）増加しています（表2参照）。

また、行政回収ではなく、ごみとして排出する前の重要な減量化として昭和54年から実施している「資源物集団回収事業」でも、7年度の資源回収量2712トンが15年度では4057トンに、1345トン（49・6％）増加しています。特に15年度の紙類回収量では、行政回収の3035トンを約1



二ツ塚最終処分場

000トン上回る4033トンを回収しているように、ごみ減量やリサイクルに対する市民の皆さんの意識の高さが伺えます。

しかし、15年度での資源ごみの資源化総量（集団回収量を含む）を市民一人一日当たりの量で見ると224・0グラムとなり、多摩26市で比較すると平均が258・2グラムで、当市は上から21番目の順位です。

また、皆さんのご協力により資源ごみの回収量は年々増加してきていますが、柳泉園組合のごみ組成調査によると燃やせるごみの中の約50％に紙類、燃やせないごみの中の約6割にビン・缶・ペットボトルが含まれています。これらのものが全てリサイクルできるものとは限りませんが、分別をしていただくことで焼却や埋め立て処分をせずに



このままだと日の出町二ツ塚最終処分場も満杯に...

今後のごみ減量化対策

廃棄物減量等推進審議会を設置

日の出町二ツ塚処分場の延命化や自然環境に対する負荷軽減などの観点から、これまでのごみ減量化・資源化施策を積極的に展開しなければなりません。そして、燃やせないごみとして収集し処理処分している容器包装リサ

また、皆さんのご協力により資源ごみの回収量は年々増加してきていますが、柳泉園組合のごみ組成調査によると燃やせるごみの中の約50％に紙類、燃やせないごみの中の約6割にビン・缶・ペットボトルが含まれています。これらのものが全てリサイクルできるものとは限りませんが、分別をしていただくことで焼却や埋め立て処分をせずに

表2 排出量の推移（単位：トン）

年度	10	11	12	13	14	15
区分						
収集量（可燃ごみ）	18908	18065	18632	18923	18805	19130
収集量（不燃ごみ）	3775	3490	3456	3575	3788	3867
収集量（粗大ごみ）	253	108	126	86	90	102
収集量（資源ごみ）	5591	5238	5303	5216	5172	5264
収集量（有害ごみ）	32	33	36	39	40	44
持込量	4672	4964	5166	5371	5584	5339
排出量	33231	31898	32719	33210	33479	33746

新緑が目まぶしい季節になりました。地域に緑が帰ってくると、やはり東久留米らしさも倍増すると思えるのは私一人ではないと思います。

市内の緑の多くは、地権者の皆さんの努力によって支えられていますが、相続等の事情により緑が減少してきているのも事実です。行政としてもこの問題を真剣にとらえています。一方、正直に申せば決定打はありません。雑木林や屋敷林を守るための税の特例制度や市民の皆さんの理解と協力による市民緑地制度の導入が必要と考えます。一方で「新緑は美しいが、落葉時期に雨どいが詰まる」「街路樹の落葉掃きが大変」との声が寄せられるのも事実ですが、緑が与えてくれる安らぎや風情は人間が生きていくために必要不可欠なものと考えます。

自然と共生していくために「なすべきことは何か」「考慮すべきことは何か」ということもあると思います。迷惑を甘受してくださいというだけではありませぬ。行政も行うべきこと、努力すべきことはなしてまいりますが、地域の自然を守り育てていくためには、どうしても市民の皆さんの理解と協力が必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

わたしの
見てある記
市長 野崎重弥



表1 ごみ収集経費の推移

年度	収集処理経費（千円）	1人当たりの処理費（円）	市民1人当たりの処理費	
			年額（円）	日額（円）
10	1911520	66932	16832	47
11	1826771	67824	15948	44
12	1779441	64582	15538	43
13	1816368	65245	15801	43
14	1965647	70466	17137	47
15	2339104	82343	20363	56

市でも、本年4月に東久留米市廃棄物減量等推進審議会を設置し、循環型社会の形成を目指していくために、より一層のごみの減量化・リサイクルの推進・家庭ごみの有料化について審議をいただいています。

この廃棄物減量等推進審議会は、東久留米市廃棄物の処理及び再利用に関する条例に基づき設置された審議会です。学識経験者2人、公募による市民5人、市内事業者2人、再資源化事業者1人の計10人で構成され、本年12月答申を予定に審議が進められることとなります。

「新緑は美しいが、落葉時期に雨どいが詰まる」「街路樹の落葉掃きが大変」との声が寄せられるのも事実ですが、緑が与えてくれる安らぎや風情は人間が生きていくために必要不可欠なものと考えます。

自然と共生していくために「なすべきことは何か」「考慮すべきことは何か」ということもあると思います。迷惑を甘受してくださいというだけではありませぬ。行政も行うべきこと、努力すべきことはなしてまいりますが、地域の自然を守り育てていくためには、どうしても市民の皆さんの理解と協力が必要です。どうぞよろしくお願い申し上げます。